

甲状腺簡易測定研修

Nal(Tl) サーベイメーター による甲状腺簡易測定方法を学ぼう

2022年度
全8回 **7/8/9/10**月開催

各定員20名 / 9:00-12:50 [各研修は、開催日の1か月前頃から募集を開始します。]

旅費支給
受講無料

第5回 7/9(土) 会場：佐賀県医療センター好生館 [募集] 6/23(木)

第6回 8/20(土) 会場：長崎医療センター [募集] 8/8(月)

第7回 9/17(土) 会場：長崎大学被ばく医療総合研修センター [募集] 9/5(月)

第8回 10/22(土) 会場：佐賀大学医学部附属病院 [募集] 10/10(月)

お問い合わせ

長崎大学原子力災害対策戦略本部

Tel. 095-819-8536

<https://www.gensai.nagasaki-u.ac.jp/>

お申し込み



読み込んでアクセス！
ログイン後申し込み！

<https://retms.nirs.qst.go.jp/retmsWeb/top>

● 対象者

地方公共団体、原子力災害拠点病院・原子力災害医療協力機関等の医療機関、原子力事業者の職員等（医療従事者に限りません）

※本研修は、事前に原子力災害医療基礎研修または原子力災害医療中核人材研修を修了、または令和3年4月以降の甲状腺簡易測定研修を修了し、有効期限内の修了証書を保有した上で、受講していただく必要があります。（裏面参照）

● 内容

講義 1. 我が国の原子力災害対応
2. 甲状腺簡易測定の概要
3. 話題提供

実習 1. 甲状腺簡易測定実習



総合討論 1. 実習の解説と質疑応答

なぜ今、甲状腺簡易測定研修？

理由1

原子力災害が発生した際、環境中に放射性物質が放出されると、放射性プルームや吸入摂取などにより被ばくする恐れがあります。放射性物質の中でも、放射性ヨウ素は甲状腺に取り込まれ、甲状腺がんになるリスクが高まります。

理由3

東日本大震災時の反省から、令和4年度改正予定の「原子力災害対策指針」では、原子力災害発生時に、

- ・19歳未満
- ・妊婦、授乳婦
- ・乳幼児と行動を共にした保護者等(必要に応じて)

を対象に、甲状腺被ばく線量のスクリーニングを目的とした「甲状腺簡易測定」を3週間以内に実施する体制を整備することが追加されます。

理由2

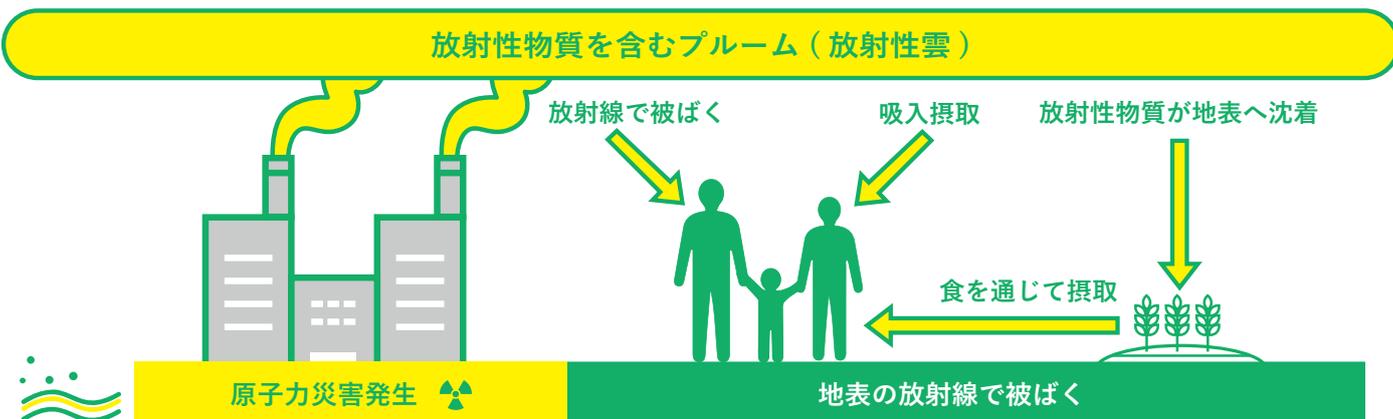
東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故発生時、甲状腺被ばく線量測定が十分に行われませんでした。そのため、震災当時18歳以下であった福島県民38万人の方々は、今も甲状腺超音波検査を受けています。

理由4

新しい指針で目指す体制では、測定者として、地方公共団体職員に加え、原子力災害医療協力機関や原子力事業者の職員が想定されています。

3週間以内に対象者の測定を終えるためには、多くの測定者が必要であり、各県、各施設で測定者の養成が急務です。甲状腺簡易測定研修では、測定の概要を学び、NaI(Tl)サーベイメーターを用いた実習を行うことにより、甲状腺簡易測定を行う人材の育成を目指します。

原子力災害における放射性物質の影響



ステップアップ方式の新研修体系

令和3年度から開始された新しい被ばく医療研修体系は、「基礎」「専門」「高度専門」に分かれます。受講生は、「原子力災害医療基礎研修」から矢印に沿って受講を進めます。受講後は、修了証書が発行され、有効期限は「発行日の3年後の年度末」となります。

